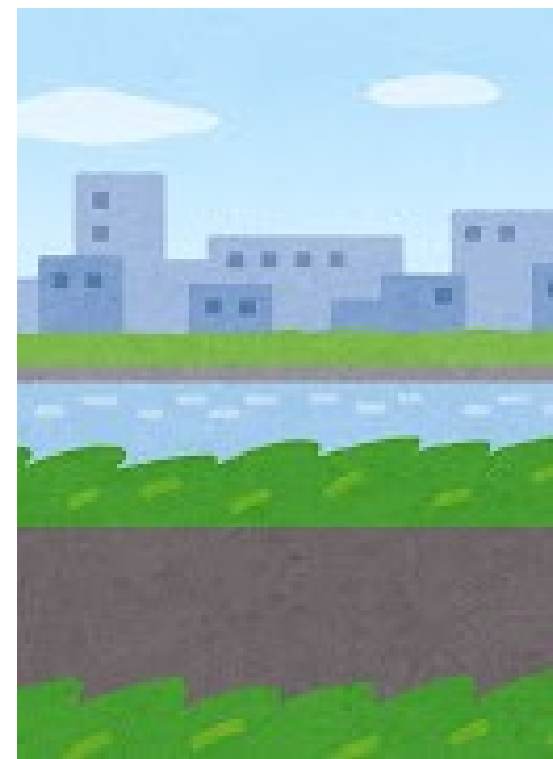


北区における水と緑を 活用したまちづくり 検討事業

北区役所政策推進課

北区将来ビジョンと本事業の関係

- 「北区将来ビジョン（2025～2034）」は、
「人が集い、ともに支えあい、絆をはぐくむまち」
の実現に向け、区民のみなさまとで共有する「目標」
- 本事業は、北区将来ビジョン（資料）に掲載
【「水と緑豊かなまちづくり」～三方を河川に囲まれた地形（水辺）を利用し、区内主要公園及び新規開業したうめきたエリア（緑）を結ぶネットワークを形成～】を検討・具体化するための調査・整理を行う
- 将来ビジョンの期間（10年）では描ききれない公園・
土地利用など、主にハード面の方向性を中長期の視点で示す



※本事業は、直ちに個別整備を決定するものではなく、将来に向けた指針づくりです。

北区将来ビジョン 2025～2034

「人が集い、ともに支え合い、絆をはぐくむまち」

北区は、2025（令和7）年度からの10年間を新たな計画期間として、今後めざしていく将来像やその実現に向けた取組の方向性を定めました。



北区長 寺本 譲

「北区将来ビジョン 2025～2034」では、地域住民が安心して暮らせるだけでなく、訪れる人々にとっても心地よいまちをめざすとともに、温かいコミュニティをはぐくみ、誰もが居場所を感じられるまちをめざします。また、三方を河川に囲まれた北区の地形（水辺）を利用し、区内主要公園及び新規開業したうめきたエリア（緑）を結ぶネットワークが形成された「水と緑豊かなまちづくり」もめざしていきたいと考えています。

絆 安全・安心を身近に感じられるまち

防災対策

- 避難施設の確保・備蓄物資配備など
- 防災をきっかけとしたマンションコミュニティ形成支援による地域の自主防災活動の強化

防犯・まち美化対策

- 地域住民、企業、警察等と連携した啓発活動による犯罪抑止機能の向上
- 駐輪場の利用促進等による自転車利用の適正化

支 誰もが幸せに暮らせるまち

北区地域福祉計画の推進

- 「北区地域福祉計画」に基づく住民主体の地域づくりや相談・支援の充実

健康寿命の延伸

- 「いきいき百歳体操」「はつらつ脳活性化教室」等の推奨による健康づくりの推進など

子育て施策の充実

- 子育ての不安や子育て環境における様々な課題を持つ保護者への支援や相談体制の整備など



集 地域資源やポテンシャルを活用し、持続可能で魅力的なまち

地域コミュニティの活性化

- マンションコミュニティの形成やマンション住民と地域とのつながりづくりの支援など

教育環境の支援

- 本物の文化芸術体験や企業・団体との連携・協力による講師派遣等の教育支援の実施など

官民連携の推進

- 防災や防犯等のまちづくりや地域活動等の様々な分野における企業等との継続的な連携



※イメージ図

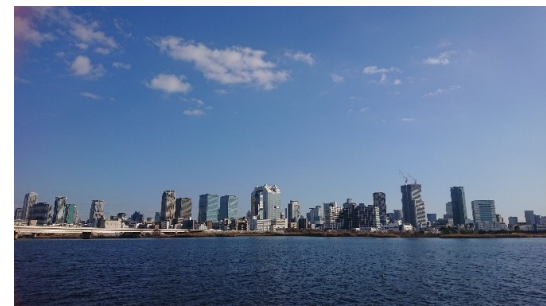


詳細は北区HP▲

政策推進課
☎06-6313-9976
FAX06-6362-3821

事業の位置づけ（背景）

- 「北区将来ビジョン（2025～2034）」に基づき、
地域資源を活かした持続可能で魅力的なまちづくりを推進
- 淀川・大川・堂島川・土佐堀川などの水辺と、うめきた・中之島等の公園があり、**都市と自然が共生するまちづくりに向け**、
北区の強みを活かした方向性を整理する必要がある
- 淀川周辺では高速道路などの整備が進んでおり、
河川敷の新しい使い方（公園機能など）の検討が必要
- 大阪市の「緑の基本計画」等の考え方に沿って、
みどりを活かしたまちづくりを進める流れがある



北区の強み

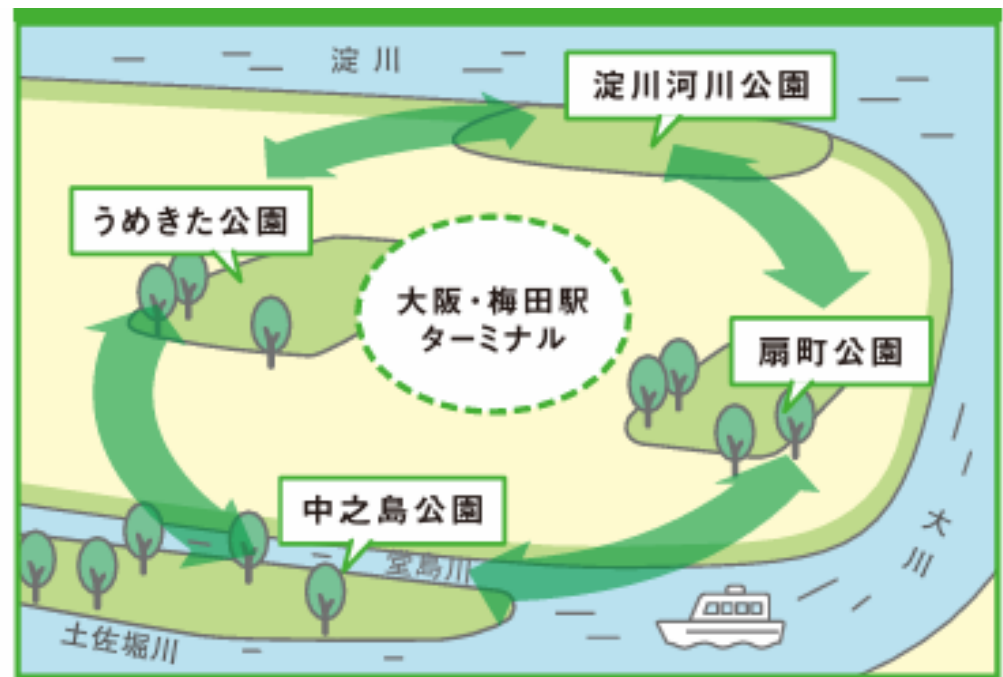
■水辺空間

淀川・大川・堂島川・土佐堀川

■みどり空間

うめきた・中之島など都市公園

➤ 都心の都市機能と調和した景観
が、北区の大きな魅力



➤ 淀川ではインフラ整備が進む中、
河川敷等での新たな機能・価値づくりも期待

市の方針との整合

- 大阪市は
「大阪市緑の基本計画2026」
を策定

- これまでの
「みどりのストック」と、
市民・事業者・行政の
パートナーシップを活かし、
『一人ひとりが輝くみどりの
まちづくり』を目指す

- 本事業は、この市の方針も踏まえ、北区として水と緑を活かす道筋を検討する



事業目的

- 北区の強みである「川（水辺）」と「公園（緑）」を活かし、
暮らしの安心・快適さ・魅力向上につなげる
- **自然環境と都市機能が融合した北区**のまちづくりの可能性を整理し、
まちと川・公園をつなぎ、回遊性の高いまちを目指す



主な事業 内容

➤ 現状整理・分析

自然環境（水系・緑地・地形等）と都市機能（文化・教育・交通・レクリエーション等）のデータを整理し、地域課題を多角的に分析し、水と緑等の活用可能性を把握する。

➤ まちづくりの方向性と具体策づくり

水と緑を活かした、課題解決に資するまちづくりの方向性を多面的に検討。

➤ 淀川での整備イメージ（素案）づくり

現地調査と河川管理者・工事関係者等へのヒアリングで整備の前提条件を整理し、それを踏まえた整備イメージを作成・提案。会合の意見を集約し、実現可能な整備イメージ（素案）と対応方針をまとめる。

➤ 検討会の支援

地域関係者と有識者等で構成する会合における支援。